

協働する図書館: 図書館員による教員とのつながり方の開拓

長澤 多代
三重大学 附属図書館 研究開発室

当日の提示資料に、語句等の修正を加えたスライドです。

はじめに

情報リテラシー教育のパラダイムの転換

図書館が関与すべき情報リテラシー教育

以前から実施してきた図書館利用法, 文献探
索法, データベース利用法を中核にした, 学
習・研究情報の探索・評価・活用・提示の方法

図書館内部の事情にもとづくサービスから,
図書館が所属するコミュニティの要請に対応
するサービスへの転換

2

情報リテラシー教育と図書館

関連の段階	利用者教育の アプローチ	授業開発への 図書館員の参 加度	学校図書館の 学習資料セン ター化度	学校カリキュラ ムの探求学習 的組織度
第1段階 関連なし Basic	ソース パスファイン ダー	授業開発に参 加しない/利 用者の個別の ニーズに対応	弱 ↑	弱 ↑
第2段階 関連 Subject- related	プロセス 批判的思考	授業開発を援 助	↓ 強	↓ 強
第3段階 統合 Course- integrated	統合	授業開発に参 加	強	強

福永智子「学校図書館における新しい利用者教育の方法」『図書館学会年報』39(2), 1993, p.55-69.

【配布資料にありません】

発表の概要

- 大学教育の質保証と大学図書館
- 科目関連指導における教員との連携
- 教員の教育活動に対する支援
- 大学や教員のニーズの把握

4

大学教育の質保証と大学図書館

5

教育の質保証

18歳人口の減少, 情報化・グローバル化の進展

大学教育の目標:

「生涯学び続け, どんな環境においても“答えのない問題”に最善解を導くことができる能力」の育成

能動的学修(アクティブ・ラーニング)の導入

学修時間の確保(=単位の実質化)

6

教育の質保証

【配布資料にありません】

能動的学修(アクティブ・ラーニング)の導入

学士課程教育は, 学生の思考力や表現力を引き出し, その知性を鍛え, 課題の発見や具体化からその解決へと向かう力の基礎を身につけることを目指す能動的な授業を中心とした教育が保証されるよう, 質的に転換する必要がある

学修時間の確保(=単位の実質化)

学士課程教育の質的転換の前提として, 学生に, 授業時間にとどまらず授業のための事前の準備や事後の展開などの主体的な学びに要する時間を含め, 十分な総学修時間の確保を促すことが重要である

7

単位制度と学修時間

1単位は①と②の合計で標準45時間の学修を要する学習内容

- ① 教員が教室等で授業を行う時間
- ② 学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間

1単位=標準45時間の根拠

8時間×5日(月～金曜日)+5時間(土曜日)

45時間=1週間の学習時間に相当

8

能動的学修(アクティブ・ラーニング)

学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学ぶことによって、後で学んだ情報を思い出しやすい、あるいは異なる文脈でもその情報を使いこなしやすいなどが期待される

授業のための 事前の準備	資料の下調べや読書, 思考, 学生同士の議論など
授業の受講	教員による直接指導+その中での 教員と学生, 学生同士の議論など
事後の展開	授業内容の確認や理解の進化のた めの探究, さらなる討論や対話

学修時間 9

学士課程教育の質的転換へ

- ・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)の設定*
- ・授業計画(シラバス)の作成
- ...
- ・学士課程教育の質的転換を支える学修支援環境
教育サポートスタッフの充実 e.g. TA
ICTを活用した双方向型の授業・教学システムの整備
学生に対する経済的支援
学生の主体的な学びのベースとなる図書館の機能強化

10

教育の質保証と大学図書館

能動的学修の支援(学習成果の向上)

情報リテラシー教育

初年次教育科目における図書館ガイダンス
科目関連の情報利用指導(科目関連指導)
パス・ファインダー

単位の実質化(教室外の学修環境の整備)

ラーニング・コモンズ

FD(ファカルティ・ディベロップメント)等による教員の支援
FDのアプローチを取り入れた教育支援

SD(スタッフ・ディベロップメント)等による専門性の向上
求められる専門能力の検討と資質開発

11

科目関連指導における教員との連携

12

用語解説

科目関連指導 (course-related instruction)

「ある学科目の学習・研究の課題において必要とされる情報探索法・整理法・表現法を学ばせる指導方式を指す。通常、教員から要請されて図書館員がその授業時間の一部を使って指導を行う。」

『図書館利用教育ガイドライン』1998

13

科目関連指導の到達目標

- 学生が、図書館や図書館員が自分たちの学習活動を支援する機関(職員)であることを認識する。
- 学生が、情報を利用するプロセス(情報探索, 情報整理, 情報表現)の全体像を理解する。
- 学生が、情報を探索するのに有用な道具(目録やデータベースなど)を理解し、利用できる。

14

科目関連指導の設計

- ① 図書館員が、学期の始まる2-3週間前に、講義要綱から支援対象とする科目を抽出する。
- ② 図書館員が、①の担当教員に、図書館員による支援の必要性を確認し、実施日を決定する。
- ③ 図書館員は、科目のシラバスを読んだり、教員と打ち合わせをしたりして、課題のテーマについて理解を深め、これに関する一次資料や二次資料、データベースを検討して**パス・ファインダー**を作成し、Web上で公開する。
- ④ 指導当日には、図書館員が、パス・ファインダーを示しながら、情報の探索法、情報の入手法について説明する。

15

科目関連指導の設計・実施の要点

- **課題探求型の授業科目**を重点的に支援する。
- 一般的なテーマではなく、授業科目が与える**課題のテーマ**を支援内容に組み入れる。
- 実施時期を「**教える好機**(teachable moment = テーマを設定した直後)」に設定する。
- 各教員の担当者(**MYライブラリアン**)を設定する。

各授業科目にカスタマイズして設計する

16

科目関連指導の利点

教員にとっての

- 科目関連指導を受けた学生は質の良い課題を提出するので、成績評価の作業が楽になった。
- 専門分野に関する新しい知識を入手し続けるには多大な労力が必要になる。科目関連指導によって、教員も、専門分野の最新動向を知ることができる。

(いずれも、アラム・カレッジの教員による報告)¹⁷

教員の教育活動に対する支援

18

教育支援の目標と方法

主な到達目標

- 教員が、図書館が学習・教育支援機関であることを認識する。
- 教員が、課題探求のプロセスにおける情報利用の注意点と対策について理解する。
- 教員が、課題探求型の授業スタイルを支援する教材を作成できるようになる。
- 教員が、自身の情報リテラシーを向上させる。

19

教育支援の設計・実施の要点

- 着任前後の教員を主な支援対象とする。
- 図書館や図書館員が協力的であることを印象づける。
- 教員同士をつなぐ。
- いつでもどこでも支援する。

教員に対する直接的な支援を実施して、図書館の学習・教育支援機能や図書館サービスに対する教員の理解を深める。

20

例) 新任教員の支援

新任教員への図書館サービス案内状の送付(アラム・カレッジ)	
内容	着任が決まった教員に 図書館のサービスを紹介した手紙 を送付する。 授業に必要な文献があればいつでも購入できること、図書館がいつでも支援できることを伝える。
新任教員オリエンテーション(三重大学, 長崎大学)	
内容	新任教員オリエンテーションの一環として、「 図書館の利用法 」について ガイダンス をする。 短時間で、附属図書館がいかに学生の学習活動や教員の教育活動を支援できるのかを伝える。 附属図書館の アピール・ポイント (例として、コレクション、建物やスペース、歴史など)を伝えるのもよい。

21

例) 教育開発ワークショップ

教育開発ワークショップ(アラム・カレッジ)	
説明	1日規模のワークショップによって、教員と図書館員が レポート課題など課題探求型の課題の設定や指導方法 について検討する。
目的	<ul style="list-style-type: none"> •教員が情報資源や課題探求型の課題について理解を深める。 •教員と図書館員、教員同士が情報交換をする機会を設ける。
内容	<ul style="list-style-type: none"> •新しい情報資源と新しい課題 •研究プロセスの指導 •特定の分野の情報探索法 •剽窃(ひょうせつ)

22

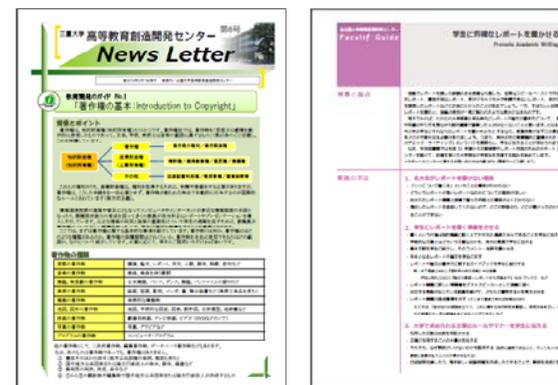
例) FDワークショップ

FDワークショップ(長崎大学)	
説明	2時間のワークショップによって、図書館員が教員に パス・ファインダーの構成と多様なデータベースを説明し、これをもとに教員がパス・ファインダーを作成する。
目的	<ul style="list-style-type: none"> •教員が、学生の情報探索を支援するツールとしてパスファインダーの存在を知る。 •教員が、パスファインダーの役割や構成、情報探索の道具について理解を深める。 •教員と図書館員が顔を合わせる機会を設ける。
内容	パスファインダーの説明と演習 各種データベースの説明

23

例) ガイド

必要な情報にさっとアクセスできるように、トピック別に背景や要点を簡潔にまとめた1枚もののガイド



名古屋大学版 <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/facultyguide/>
 三重大学版 <http://www.hedc.mie-u.ac.jp/edguide/edguide.html>

大学や教員のニーズの把握

25

図書館員の役割

大学の中心＝教育・学習のプロセス

図書館員＝教育・学習プロセスの成果の向上を支援する図書館サービスの“**ファシリテーター**”となる。

所属する機関の学生や教員のニーズを予測した上で、教員に連携をはたらきかける“**事前対策的なアプローチ**”をとる。

教員とのつながり方を開拓する

26

利用対象への気づき

- 学生の情報リテラシーはどれくらいか？
- 学生の情報探索行動はどのようなものか？
- 十分な学習の成果が得られているか？
- 教員は学習の成果に満足しているか？
- 専門性を活かした高度な図書館サービスを提供できているか？
- 教員は図書館や図書館員にどのようなイメージを持っているのか？
- 教員は図書館をどのように利用しているか？

27

大学全体のニーズの把握

大学全体の教育計画
全学の教務委員会の議事の確認

「**シラバス**」

→学生用の推薦図書ほか学習支援の案内をする

「**学習スペース**」

→ラーニング・コモンズに関する情報を提供する。

アプローチの対象：
全学の学務部，教務課，理事（教育担当）

各部署のニーズの把握

3つの方針の「ディプロマ・ポリシー」
図書館と関連するポリシーの確認

「課題探求」等

→課題探求のプロセスと情報利用の
関係に関する情報を提供する。

「初年次教育」

→図書館ガイダンスの案内をする。

アプローチの対象：
各部署の部署長，教務委員，FD委員

29

教員団のニーズの把握

大学全体の学習・教育支援
図書館との関連が深い支援の確認

「新入生オリエンテーション」「新任教職員研修」

→図書館によるオリエンテーションの実
施を提案する。

「FDワークショップ」

→図書館による企画を提案する。

アプローチの対象：
FD担当者，FD委員会の委員，
理事（教育担当），人事課

30

教員のニーズの把握

シラバス（講義要綱）
図書館との関連が深い科目の確認

「レポート」「プレゼンテーション」

→科目関連指導の案内をする。
→パスファインダーの作成を提案する。
→レファレンスその他図書館サービス
を紹介する。
→情報利用プロセスと図書館の関係
に関する情報を提供する。

アプローチの対象：個々の教員

31

最後に

- “インフォーマル”な場で，教員と交流す
る機会をもつ。（食堂，交流会，食事会など）
- 図書館員が，“図書館外で広く活動する”
（学内講師，学内の委員会の委員，学会等
における発表など）。
- 共通の言語で話す（専門用語を多用しない）。
- 「北風と太陽」の太陽のアプローチを目指す。

32

主な参考文献①

- 中央教育審議会『予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ(審議のまとめ)』2012.3.
- 中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて』(答申) 2008.
- 科学技術・学術審議会『大学図書館の整備について』(審議のまとめ) 2010.12.
- 長澤多代「アーラム・カレッジの図書館が実施する学習・教育支援に関するケース・スタディ」『Library and Information Science』 No.57, 2007, p.33-50.
- 日本図書館協会図書館利用教育委員会編『情報リテラシー教育の実践』日本図書館協会, 2010, 180p. 33

主な参考文献②

- 長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携を促す図書館員によるつながり方の開拓:アーラム・カレッジのケース・スタディをもとに」『日本図書館情報学会誌』 Vol.58, No.1, 2012.3, p.18-34.
- 永田治樹ほか. 今後の「大学像」の在り方に関する調査研究(図書館)報告書:教育と情報の基盤としての図書館. 国立大学法人筑波大学, 2007.3, 157p.
<http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/pdf/future-library.pdf> (参照 2011-10-04)
- Hardesty, Larry ed. Bibliographic Instruction in Practice: A Tribute to the Legacy of Evan Ira Farber. Ann Arbor, Pierian Press, 1993, 157p. 34

大学教育に関する情報源

学会

日本高等教育学会 <http://www.gakkai.ne.jp/jaher/>

大学教育学会 <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

初年次教育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jafye/index.html>

定期刊行物

上記の学会誌, 『IDE・現代の高等教育』, 『大学と学生』, 『カレッジ・マネジメント』, 『BETWEEN』

ASAGAO kyoto-uメーリングリスト <http://kyoto-u.s-coop.net/asagao/>

京都大学高等教育研究開発推進センターに関する最新の情報, 国内の大学教育関係の催し等に関する情報が得られます。

連絡先

長澤 多代 (NAGASAWA Tayo)

〒514-8507

三重県津市栗真町屋町1577

三重大学 附属図書館 研究開発室

TEL (059)231-9892

FAX (059)231-9086

E-mail nagasawa.tayo@mie-u.ac.jp

URL <http://www.lib.mie-u.ac.jp/lab/nagasawa/>

長澤多代「アールム・カレッジの図書館が実施する 学習・教育支援に関するケース・スタディ」2007

Library and Information Science No. 57 2007

第2表 「アールム・セミナー」における学科関連指導の進行表

13:00	[場所: レファレンス室内にあるコンピュータ演習コーナー] レファレンス係員が、学生(11名)とクラスの担当教員に自己紹介をして、自分の部屋の場所と連絡先を伝える。
13:05	レファレンス係員が、配布した紙媒体のパスファインダー(Web上からも入手可能)を示しながら、冊子体の一次資料と二次資料、データベースの種類と情報の探索法について説明する。 [質問](レファレンス係員から学生):「1900年に起こった重要な出来事は?」 [回答]:(学生が口々に答える。)
13:15	レファレンス係員が、索引の使い方を説明し、アールム図書館のOPACの使い方を説明する。その中で、検索式の作成法、相互貸借の依頼の方法について説明する。 [質問](学生からレファレンス係員):「相互貸借を申し込む前に、学生自身が資料の所蔵館を確認しておく必要があるのか?」 [回答]:「学生が確認する必要はない。」
13:20	(全員が参考図書の本棚へ移動する。)レファレンス係員が、参考図書の書架配列と請求記号について説明する。
13:23	(演習コーナーへ戻る。)レファレンス係員が、アールム図書館で利用可能なデータベースの検索法(キーワード検索)を説明し、文献の予約方法を説明する。また、検索結果のページの構成を説明する。 [質問](学生からレファレンス係員):「学生自身が実際にデータベースを使って検索することができるのか?」 [回答]:「学生も検索できる。」
13:30	レファレンス係員が、アールム図書館のOPACをつかって、著者名検索について説明する。この時に、特定の情報(人物情報)について調べるだけではなく、その背景となる一般的な情報(人物に関わる国の情報等)についても検索するように指導をする。
13:35	[質問](学生からレファレンス係員):「雑誌と学術雑誌の違いは?」 [回答]:「雑誌には、雑誌記者が書いた記事を掲載する大衆雑誌(general periodicals; magazines)と、専門家が書いた記事を掲載する学術雑誌(scholarly journals)がある。大衆雑誌の特徴は、高い視覚効果をもち、人目を引く短い題目を付し、短い本文をもつことにある。学術雑誌の特徴は、視覚効果をほとんどもたず、長い題目を付し、長い本文をもつことに加えて、特別な語彙を使用し、通常は脚注や参考文献を含むことにある。」 レファレンス係員が、Literature Resource Centerの検索法、検索結果のデータの読み取り方について説明する。その時に、検索結果をEndNote(文献情報を管理するソフトウェア)に転送できることを説明する。また、関連するデータベースを紹介する。
13:43	レファレンス係員が、MLA International Bibliographyの検索法と相互貸借の方法について説明する。また、紙媒体及び電子媒体の論文の入手法と、アールム図書館内の雑誌架の場所を説明する。
13:50	[質問](レファレンス係員から学生):「これまでにJSTORを利用したことがある人は?」 [回答]:(1名の学生のみが利用経験をもっていた。) レファレンス係員が、JSTORの検索法とフルテキストの利用法について説明する。その中で、検索結果を評価する必要性、MLA International BibliographyとJSTORの違いを説明する。
13:55	[質問](レファレンス係員から教員):「追加の説明事項はないか?」 [回答]:「特にない。」 レファレンス係員が、これまでの検索結果をもとに、与えられた小論文の主題を絞り込む方法について説明する。
13:58	教員が、レファレンス係員による説明内容を要約し、小論文を作成するには図書館利用が必要になることを学生に伝える。 教員と学生は教室へ戻る。